

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

自動車産業が強い理由

野口 悠紀雄 (早稲田大学ビジネス・ファイナンス研究センター 顧問)

1. 日本の半導体産業や液晶産業の不調が目立つ半面で、自動車産業は好調だ。現在の日本の製造業の中心が自動車産業であることは、間違いのない。日本の自動車産業はなぜ強いのか？。半導体や液晶などとの違いは何なのか。日本の自動車産業が強いのは、製品やコモディティー化していないからである。ここでコモディティー化とは、機能や品質などでの差別ができず、価格だけが選択の基準となってしまった製品だ。
2. 自動車がコモディティー化しない理由は、幾つか挙げられる。第一は、安全性について一定の基準を要求されることだ。仮に公的な基準がなかったとしても、人々は安全性を求める。価格がいくら安くても、安全性で問題があれば、買わない。第二に、メカニカルに複雑な構造を持つ機械であるために、製造装置だけ備えればすぐに生産できるというわけではないことだ。そして、こうした複雑な製品の組み立ては、規律正しく、チームワークが取れた、日本の労働体制が向いているというのである。
3. しかし、将来を見ると、次の諸点に留意する必要がある。第一に、電気自動車（EV）になれば、自動車という製品の特徴はかなり変わってくる。部品の生産には高度な技術が要求されるとしても、その組み立ては容易になる。第二に、自動運転の時代になれば、環境は一変する。日本の自動車産業が引き続き優位性を維持できるかどうかは、確かではない。 (参考:「週刊ダイヤモンド」2019年6月27日号)

ワンポイント経営アドバイス

オープンイノベーションのポイント

米山 茂美 (学習院大学教授)

1. 日本企業が進めようとしているオープンイノベーションは、スタートアップや大学など自社にはない外部の技術を取り込む「インバウンド型」が多い。うまく進めるには、パートナーへの情報開示と社内の見える化が欠かせないだろう。オープンイノベーションを推進する際に、手の内を明かさずに外部の技術だけほしいという考え方は通用しない。日本企業は、自らのアイデアをさらけ出すことをリスクとして感じていることが多い。
2. 欧米企業は工夫している。仲介企業をうまく活用して、情報開示のリスクを抑えている。日本企業も見習う必要がある。さらに、外部から技術を取り込むためには、ほしい技術を明確にする必要がある。そのためには、社内の技術を棚卸ししなければならない。

(参考:「日経ビジネス」:2019年7月15日号)

経営者のための理念・哲学

成功の秘訣十カ条 (内村鑑三)

「代表的日本人」などの著者で知られる内村鑑三が残した「成功の秘訣十カ条」がある。1. 自己に頼るべし、他人に頼るべからず。2. 本を固うすべし。然らば事業は自づから発展すべし。3. 急ぐべからず。自働車の如きも成るべく徐行すべし。4. 成功本位の米国主義に倣ふべからず。誠実本位の日本主義に則るべし。5. 濫費は罪悪なりとするべし。6. 能く天の命に聴いて行ふべし。自ら己の運命を作らんと欲すべからず。7. 雇人は兄弟と思ふべし。客人は家族として扱ふべし。8. 誠実に由りて得たる信用は最大の財産なりと知るべし。9. 清潔、整頓、堅実を主とすべし。10. 人もし全世界を得るとも其靈魂を失はば何の益あらんや。人生の目的は金銭を得るに非ず。品性を完成するにあり。

(参考:「致知」2019年9月号)

古典に学ぶ

富は自己一人の専有ではない

(解説) いかに自ら苦心して築いた富にしたところで、富はすなわち自己一人の専有だと思ふのは大いなる見当違いである。要するに、人は唯一人のみにては何事もなしうるものではない。国家社会の助けによって自らを利し、安全に生存するもできるので、もし国家社会がなかったならば、何人たりとも満足にこの世に立つことは不可能であろう。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)